



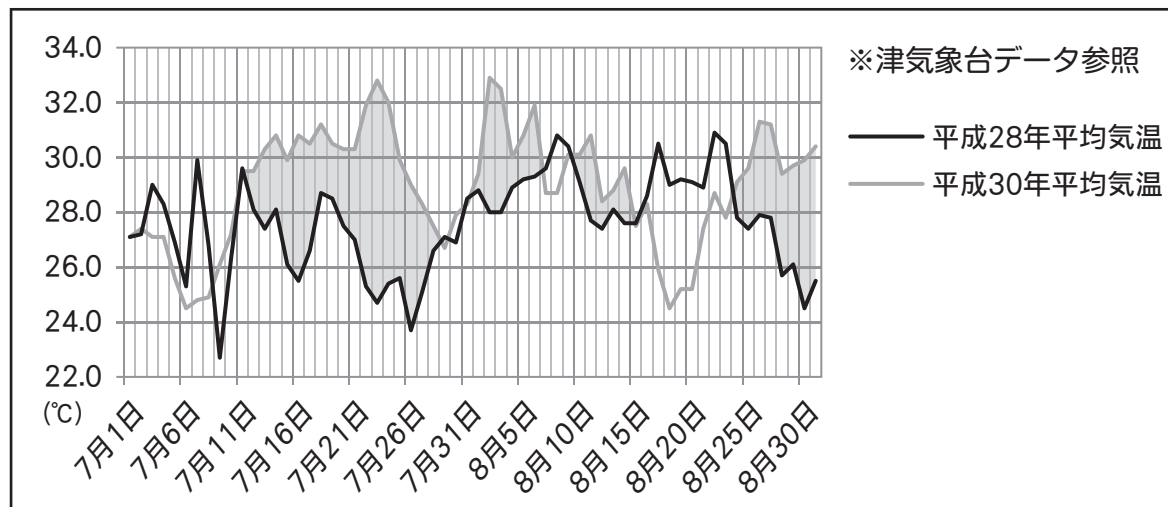
# 平成30年の稲作を振り返って

## 平成30年 気象経過・生育状況

今年の稲作期間の気象経過は、例年になく真夏日や猛暑日が多く続いたことが、平成30年の稲作を振り返るためのポイントになりました。そのポイントとなった猛暑日が米の作柄を左右する出穂期から登熟期にあたる7月から8月にかけて多くなったことで米の品質・収穫量に影響をあたえたと考えられます。米の品質については、コシヒカリの作付が多いJA津安芸管内では、高温障害の影響を受けやすく、米の品質低下を招く結果になり、1等米比率が21.9%（10月23日検査分まで）と低迷しました。米の収穫量については、収穫時期の籾を見るとある程度籾数はあるように見えるものの、充実していない籾（不稔籾）が多くあったことや、米の充実不足で収穫量が伸び悩み、生産者の方においては苦労をされた年になったと思います。

図1. 平均気温

1等米比率が73%と良かった平成28年度と比較したよ!



## 総合的な白未熟粒対策!

しっかりと投入!!  
ケイカル・農力アップ散布  
などの土壌改良資材!

異常気象に  
負けない!  
土づくり

根域を広げる!  
深耕!

穂肥成分の多い  
基肥一発肥料  
を選ぼう!

登熟期の養分不足を補うため  
エムコート022をおススメします!

水分や養分を十分に吸収  
できるようにしましょう!  
作土深の目標は15cm。

## 雑草について

田植え後の気候が安定し稲の生育は順調に進み、安濃ダムの貯水率も比較的高く水が豊富にあったため、初中期除草剤の効果が十分に発揮でき、雑草を抑えられていたと思います。しかし、除草剤の残効がなくなりかけた5月下旬頃から、ダラダラと発生するホタルイなどの雑草相談が多くありましたが、取りこぼした雑草に効果が高い中後期除草剤【レブラス1<sup>kg</sup>粒剤】を散布することにより、生育後期までの雑草を抑制できたと思います。

レブラス1<sup>kg</sup>粒剤の効果発現は、雑草の大きさによって差はありますが、散布して2週間以降くらいから少しずつ効果が現れます。散布してからの効果発現は、決して早いものではありませんが、その分残効が長いことに繋がります。タイミングがあれば、中干し時期に発生し始める大型雑草のクサネムやヒレタゴボウへの効果もあるため、有効な除草剤の一つと考えています。

おススメ! 除草剤!!  
取りこぼしたホタルイや  
大型雑草のクサネムなどの  
生え始めに!



## 病害虫について

梅雨入り後からいもち病の発生を注視していましたが、いもち病予防入りの箱施用剤が多く使われていることと積極的に防除を行っていただいたことにより、大きな被害が出るまでの発生はありませんでした。斑点米カメムシの発生は、例年発生が危惧される地域でも、あぜ草刈りを徹底したり、早めの防除を行っていただいた圃場においては、ある程度抑えられたように思います。今年、特徴的に目立ったこととしては斑点米カメムシの発生が比較的少ないと思われる海岸線平野部の地域でのカメムシの発生が多く、米検査において斑点米カメムシによる着色粒で等級落ちするものが目立ちました。これから地球温暖化の影響で気温が高くなる気象経過が懸念されることから、斑点米カメムシ類だけでなくウンカの飛来など害虫に対する注意が必要となってくると考えられます。

斑点米カメムシ防除を徹底!  
出穂前のあぜ草刈りと  
穂揃い期に早めの防除を!!

